

様式(細則 5-2)

令和3年5月24日

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

議員名 芦 谷 英 夫



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため(視察)研修)を(実施)受講)したので、その結果を報告します。

記

- 1、期 日 令和3年5月11日(火) 13時～15時
- 2、視察内容 コロナウイルスワクチン接種でのフレイル(虚弱状態)診断実施状況調査
- 3、視 察 先 津和野町(津和野町体育館)
- 4、調査経費 ガソリン代 1,570円
- 5、調査研究活動の概要 別紙のとおり



コロナウイルスワクチン接種でのフレイル（虚弱状態）診断

実施状況調査のため

令和3年5月24日

- 1 日時 令和3年5月11日（火）13時～15時
- 2 場所 町民体育館（津和野町）
- 3 説明者 津和野町医療対策課 地域包括支援センター 保健師 河野雅美
（株）コロンプス 梅原慎二（「フレイル早期発見システム」納入業者）

4 概要

- ① 津和野町のコロナワクチン接種は、集団接種と1医療機関による個別接種の併用で行われ、日程は4月30日から6月9日までとし、集団接種会場は日原第2庁舎と津和野体育館の2会場。
- ② 接種終了後は、「フレイル早期発見システム」により高齢者のフレイル（虚弱状態）の診断を行っており、これは島根県内初の取り組みである（益田市は準備中）。診断はワクチン接種会場のみで行い、当面の診断目標数を420人としている。
- ③ 診断はタブレット上で「バスや電車等を使って1人で外出していますか？」などの質問が25項目あり、質問に対し「はい・いいえ」で答えるもので、フレイル「疑いあり」、プレフレイル「一歩手前」、健康「可能性は低い」などと判定され、診断後の健康づくりや日常生活の改善に役立てるとしている。
- ④ この診断はフレイル予防事業の対象者の実態把握、フレイルの早期発見と対応などに活用するため、地域高齢者サロンなどの参加者のチェックを優先しており、施設入所者、在宅で外出できない人などへの診断は、今後検討するとしている。
- ⑤ 診断の結果については、口腔器ケア、認知症予防、運動器訓練などの保健師活動、介護予防事業、地区での百歳体操事業、老人クラブ活動、施設などでの活用についてこれから検討する。
- ⑥ （梅原）このシステムは、島根県では益田市、津和野町の2自治体、鳥取県は米子市など6自治体、兵庫県1自治体が導入しており、各自治体に出向き説明している。
- ⑦ （梅原）その他、鳥取大学浦上克哉教授が開発にかかわった「物忘れ相談プログラム」（日本光電）は、米子市、琴浦町、湯梨浜町など鳥取県の多くの自治体が導入しており、認知症のスクリーニングとして自動車学校などでも導入している。

5 所見

- ① 津和野町の人口は6,684人で、高齢者人口は3,304人であるが、この事業の当面の診断者目標数を420人としているが、高齢者人口に比し少ないと見受けられ、これからの津和野町の取り組み、他市の動向などを注目したい。
- ② 浜田市は他自治体に比べ平均寿命や健康寿命、医療費、要介護者数、介護認定率などが概して高く、健康づくりや介護予防事業の取り組みが不十分で、取り組みの加速が必要である。
- ③ 浜田市では、はまだ健康チャレンジ事業が取り組まれているが、先行事業としては評価できるが、応募者も少なく政策成果も不明であり、健康づくり、介護予防に例のようなICTを活用した新たな取り組みが必要で、市として新たな取り組みが必要となっている。
- ④ 浜田市は健康づくり事業、介護予防事業、高齢者サロン活動、高齢者クラブ支援など高齢者の健康と介護予防、高齢者の社会参加への取り組みが一元的でなく、これらを連動させた市をあげた取り組みが必要となっている。

一以上一